



朝地小中4年生

地域の宝 若宮井路学ば

【豊後大野】豊後大野市朝地町の朝地小中4年生10人が3日、市内朝地、大野、緒方各町の田畑計約76畝を潤している若宮井路について学んだ。地域のことを知る授業の一環。

「これからも大切に」



竹田市会々の鏡石拱橋（上）と竹田市挾田の笹無田石拱橋（下）を見学する朝地小中4年生ら

学校を訪れた朝地町土地改良区と県豊後大野水利耕地事務所職員の井路とはかんがい用水路のことで、1901年に完成し、水路延長約17キロのうちトンネルが約13キロあり、毎秒千リもの水が流れていることなどを聞いた。

続いて現地見学。稲葉川からの取水口（竹田市飛田川）や濁淵川を越えるための鏡石拱橋（同市会々）、笹無田川をまたぐ長さ59畝の笹無田石拱橋（同市挾田、国登録有形文化財）などに行き、120年以上前に造った先人の苦労を知った。

今年4月に稼働した小水力発電所「高城発電所」（豊後大野市朝地町上尾塚）なども見学した。

祖父が稲作をしている日野湊斗さん（10）は「石橋などを造った人や井路を管理してくれる人のおかげでコメ作りができていることを知った。いつまでも使えるように大切にしたい」。

改良区の森田勝祐理事長（79）は「大野町夏足は「農家の子どもでも井路について知らない人が増えた。見学を通じて興味を持ってもらえればうれしい」と話した。

（山田志朗）



〔問①〕朝地小中学校4年生10人は地域のことを知る授業で、何について学びましたか？

若宮井路

〔問②〕井路とは川や湖から遠くの田んぼや畑まで水を運ぶ水路のことです。若宮井路はどれくらいの長さで、どれくらいの広さの田畑を潤しているのか、数字を書き入れましょう。

1. この井路の長さは、およそ（ 17 ）キロメートルです。
2. この井路が水を送っている田畑の広さは、およそ（ 76 ）ヘクタールです。

〔問③〕若宮井路は何年に完成しましたか。

1901年

〔問④〕大分県内には何百年も前に作られた古い井路が今も大切に使われています。昔の人はなぜ井路を作ったのでしょうか？ 調べてみよう。

調べ学習